

可能性に富むグローバル化への対応

世界各国で頭脳の流出が増加し、とくに`best and brightest` が米国に集まる傾向が強まっているといわれています。頭脳にとどまらず、活力ある若者など多様な能力が米国に向かっています。

生命体としての人間は、つねに不足の箇所を補い、また新たに創造をめざしているものだといわれています。社会的には人間は、世間に認められ、価値ある存在になりたいと希っているものでもあります。こうした欲求が満たされるところに元気な人々が移動していくのは避けられないことです。

これに比し日本は内外の若い生命力を吸収できない状態にあるようです。教育システムは遅れ、さらに精神風土も怪しくなっています。最近の高校生の国際比較調査で、日本は向上心や正義感が際立って低く、反面「のんびりくらしたい」が突出して多いという結果が出ています（2006年財団法人日本青少年研究所）。「人間は安楽な状態では満足せず、活動を求めるものだ」と古代から人類は教えられてきていたのですが・・・また「経営者の企業家精神」においても日本は世界の中で遙か下位に位置しているという調査結果（2007年スイスIMD）も出ています。

ともかく世界史はグローバル化の段階に突入しました。地球は、ボーダレスとなりほんとうにフラット化しました。テクノロジーの発達もあいまって、人間の知性や感性が変わるとい見方もあります。この画期的大変動の行方は全く予測不可能です。

これまでの学問の解明によると、生命の進化というものは、目的に向かって一筋の道を通ってなされるものでは決してない。それは無数の分岐をたどり、それぞれが足踏み脱線し、新たな創造は偶然のような一部の飛躍によってなすとげられる。その余の大半は消滅して残骸となる。何が生命を繋いで、発展の系列となるかは全くわかるものではない。

人間社会も一種の有機体です。はじめから目的や信念を設定して社会を建設しようというのはうまくいかないようです。社会主義の壮大な実験は、理想を掲げて計画的に社会運営を行ったのですが、破綻しました。逆に今日閉ざされた伝統回帰の目標を掲げて社会を導こうという動向がみられますが、それもまた歴史に押し流されて消え去ることは必定と思われず。

グローバル化は、社会設計もなく野放図な展開ですが、効能と可能性に富んでいます。おそらく将来へのパスポートは、この潮流の中にのみ潜んでいると思われず。

ただグローバル化のむき出しの競争における弊害は歴然です。とくに金融資本による富と産業の略奪、格差拡大と固定化などを防がなければ、社会は荒廃し、動乱の時代を迎えることになるでしょう。民主主義はそれを阻止できるはずですが。

私は経済や社会政策を語る資格のない者ですので、自由と規制に関する法律の普遍的規準を一つだけ御紹介するに留めたいと存じます。

自由の権利の中でも、最高度に尊重されるべきもの、それは言論の自由などの精神活動

です。しかしそのように本来完全に自由な行動でも、それが社会に対して「明白かつ重大な危険」を及ぼすときには、待ったなしの手段でこれを取り除くという原則があるのです。発展の芽は自由な領域からのみ出てくるわけですが、そのためにも自由の舞台は、障害を取り除いて整えられていなければならないのであります。

当センターは生活者、企業、行政の協働が事態解決に有効と考えて活動して参りました。今後一層皆様の御指導を得て努力を重ねて参りたいと存じます。

(2007.5.28 社団法人 ぐらしのりサーチセンター総会パーティーあいさつ)